

クロマツ探検隊 I

5月16日（水）に第3回「みどりの保育園」として、酒田市宮海の西荒瀬保育園に隣接する新林国有林1130・1131林班内でクロマツ探検隊（第1回）を実施しました。

当日は、昨日から雨が続き開催が危ぶまれましたが、園児の皆さんの心がけが良いこともあり、降っていた雨があがり、くもりの天気となりました。今回のクロマツ探検隊の参加者は年長組園児31名、保育園先生4名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、庄内森林管理署1名、総勢40名です。

クロマツ探検隊の出陣式では、隊長には保育園の先生が、隊長補佐に朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター及び庄内森林管理署職員が、園児のみなさんは隊員に任命されました。出陣の前に園児達が探検隊のルールと庄内砂丘クロマツ林の歴史について学びました。

それから、隊長の指示のもと、いざ探検に出陣しました。隊員の皆さんは、保育園駐車場入口で「しんちゃんの森」にある老齢クロマツ林（爺婆クロマツ）とクロマツの造林木（子どものクロマツ林）の違いを目で確かめました。クロマツ林に隣接する市道から爺婆クロマツ林を眺め、畑の土が砂であることを覚えてもらいました。また、地域の農地や住宅地にクロマツ林がなくてはならないこと。その関わりを学びました。隊員からは、地域の人から借りている農地に、ジャガイモ植えて育てていることを教えてもらいました。

市道をさらに進みクロマツ林の中に入るとそこでは、ツルニチニチソウの紫の綺麗な花が出迎えてくれました。さらに林の中を進んでいくとカキドウシ、シャガ、クルマバソウ、ムラサキケマン、ウラシマソウ、アマドコロなどの春の野草が次々と見られ、隊員からは、「綺麗な花」「可愛い花」などと特に女の子の隊員が感動していました。また、隊長補佐がクロマツに絡みついているツタウルシを見つけると、触れるとかぶれるよとその怖さについて説明をしました。

しばらく、クロマツ林内を行くと鳥の鳴き声とともに飛翔している大きな鳥を発見！もっとよく見たいという隊員の要望に応え、双眼鏡による観察を行う事にしました。隊長補佐から双眼鏡の使い方の指導を受け、双眼鏡をのぞく隊員からは、大きく見える鳥の行動に歓声が上がりました。当センターで準備した望遠鏡には、順番待ちがでる盛況ぶりでした。ここでは、隊員たちは、隊長補佐からサギの森に住んでいるアオサギ、ダイサギ等の説明受け、西荒瀬地区が野鳥にとって住みよい場所であること。アオサギの雛の半分以上は来年の春まで生きられないこと。野鳥の厳しさや生物多様性に富んだ自然があること。その中であってクロマツ林の存在が大きく影響していることを学びました。

次に、クロマツ林内で宝物探しを行いました。野草の花びらや草の芽など各隊員が自分だけの宝物探しに熱中しました。

保育園まで戻った後は、今回の探検隊最後のイベント万華鏡遊びにチャレンジしました。先ほど、クロマツ林内から探してきた「小さな宝物」を万華鏡に入れてその中を覗きました。隊員たちからは、「僕のすごく綺麗だよ」、「私の万華鏡は形が次ぎ次ぎ変わる」などと万華鏡を隊員同士交換して鏡が創り出す不思議な世界に触れていました。

最後に、総隊長の園長先生から楽しかったクロマツ探検隊での感動、ルールを守る大切さ忘れないでほしいと話がありました。隊員の皆さんと6月2日に県が主催する「やまがた森の感謝祭」の式典で「クロマツの歌」と「庄内米の歌」を元気いっぱいに歌うことを約束して、楽しかった「クロマツ探検隊Ⅰ」を終了しました。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

(フォトレポート)



双眼鏡を使った野鳥観察



宝物探しに夢中



万華鏡の魅力に引き込まれ中



万華鏡を覗きながらハイポーズ



シャガとツルニチニチソウの競演



カキドウシの花



しんちゃんの森の住人となったニホンリスの〇〇です



子育てするので静かに見守ってね